



聞き書き研究会は、江戸川区を愛し、江戸川区で強く逞しく生きた女性の姿を聞き書きとして残すため、江戸川区女性センターの区民ボランティアが2010年に始めた活動です。女性センターは2020年に人権・男女共同参画推進センターに統合され、この活動を所管しています。

「松と菊のお寺に嫁いで40年」 — ありがたい世界で生かされています —

な とり かず え
名取和江

1956年(昭和31年)
千葉県市川市生まれ
東小岩在住



星住山地蔵院善養寺

皆さん、お寺の境内によく入って来られます。遠くから来る方、ちょっとお散歩に来られる方、秋には車椅子で来て菊を見て拜んで帰るという方。公園とは違うんですけど、入りやすいというのがありますね。広い境内をもつお寺の一つの役割だと思うし、それが一番の魅力かなと思いますね。ですから、それを閉じないように維持していけたらいいなあって思います。

先々代の住職(名取盛雄、義父)は、境内に入ると日常からちょっと離れて落ち着いた気持ちになれるようなお寺づくりというのをめざしていました。先代の住職(名取和弘、夫)も、祈りの場として誰でもが入りやすい、お檀家さん以外の方も、いろんな方が来てお参りでき、自然に手が合わせるような場所であることを目標にしていました。

私の布教の方法は、玄関でのおしゃべりしかないんです。お寺にいらしてくださった方々とお話ができるというのは、いろんなことを教えてもらえるし、話を聞いてほしいという雰囲気の方のお話を聞いたり、普段どなたにも言えないようなことを私に話してくださったり。そういうのを経験すると、ああ、ありがたい仕事だなあと感じます。「今日、奥さんに会えてよかったわ」と言ってもらえるのは、私にとってすごく励みになります。だから、いつも寺に居ることになっちゃうんです。

お見合いでした

昭和31年(1956年)、市川市(千葉県)で生まれました。小学校は地元。中学、高校は市ヶ谷の女子高へ行きました。父がカメラのレンズ製造の会社をしていたので、結婚前まで父の仕事を手伝っていました。

お見合い相手は優しくて包容力のある方でした。やはり、ご縁というのはあるんですね。父の運転する車で、お相手の家を初めて訪問した時、広くてどこから入っていいのかわりませんでした。たまたま仁王門のところに車を止め、そこから入ったのですが、奥に本堂の屋根があって手前に松の木が青々としていて、本当に素晴らしい、この世のものとは思えないくらいのお美しさでした。「ええー、小岩にこ

んな場所があったの」と感動したことを、今も鮮明に覚えています。私はお寺の生まれではありませんが、家には毎月のようにお坊さんがいらして、仏壇の前でお経をあげてくださっていたので、当たり前のように仏教が体にしみ込んでいたのかなあと感じますね。母も「お坊さんと結婚すると、素晴らしいご加護があるよ」って言うので、「そうなんだ」という感じで、特に深くも考えず、素直に勧められるままに結婚しました。昭和55年(1980年)、24歳でした。

結婚した当初は、両親と主人のきょうだいが3人いました。当時の住職である義父は眼光鋭くて、ちょっと恐ろしく見えるんですけど、優しい人でした。アイデアマンで、絵心もあるし文章も上手だし、お話も面白かったので、あちこちでお話をさせて戴いていました。近隣の子どもたちに童話を聞かせ、紙芝居などもやっていました。義母は京都で尼さんの修行をした方なんです。優しいし、いつも褒めてくれるし、それで居られたようなものかもしれません。だから自分もそうならなければなあと思いつつ、義母に育ててもらいました。

私は一般の家で生まれ育ち、本当に自由気ままに育ててもらいましたが、こちらに嫁いで、家族の方たちが皆、心が広いのに驚きました。お坊さんって、修行したりお経を唱えたりするだけでなく、精神面というか、正しいものの見方とか、人を思いやる気持ちとか、家族の方たちのそういう生き方がとても素晴らしいなあと感じました。



◆再建された影向殿の落慶式にてご住職と(1997年撮影)

早すぎるお別れ

私が嫁にきて2年半くらい経った頃、義母がすい臓がんで倒れてしまいました。「次の行事はどんなふうに準備

したらいいんですか」「こういうふうにするんだよ」と聞きながら、教わりながら、一緒に働けたのは3年間くらいですね。昭和60年(1985年)に、57歳で亡くなってしまいました。ちょっと早すぎて、とても残念です。もっといろいろ教えてもらいたかった。それから、自分の思った通りにやらせてもらったという反面、自分で考えて自分で決めてやらなければならないという責任の重さというか、重圧をすごく感じていました。でも、周りの方々も優しく、地元の方たちも協力的で、ずいぶん助けてもらいましたね。

食事は家族全員が一緒にします。メニューは義父を中心に考えていました。お米のご飯しか食べないんです。パンや麺類は食事にはならなかったようです。サラダなど出すと「私はウサギじゃないんだよ」とか言われました。義父には何でも食べてもらえるようにと、「これもおいしいですよ」と言いながら少しずついろいろ作ってました。子どもたちが小さい頃、スパゲッティとか作ってあげたいんだけど、義父に遠慮してなかなかできませんでした。代わりに主人が時々ハンバーグなどを作ってくれました。

昭和58年(1983年)から、弘法大師の千百五十年御遠忌の記念行事として、仁王門の改修が始まりました。ボロボロだったんです。昭和60年(1985年)に義母が亡くなり、平成元年(1989年)には義父の入退院などが重なりました。私はその頃、乳飲み子を抱えた子育て中で忙しい毎日を送っていました。それから平成5年(1993年)に不審火による火災があり、客殿が焼失してしまいました。本当に生きた心地がしませんでした。そして義父が、新しい客殿が完成する前、平成7年(1995年)に72歳で亡くなってしまったんです。でも、病院の窓から「屋根やっているね」とか、建築の様子を見てくれていました。平成8年(1996年)に竣工して、平成11年(1999年)くらいに、ようやく落ち着いたかなあと感じた覚えがあります。

そして、平成28年(2016年)、主人が61歳を前にして亡くなりました。すごく繊細な人でした。その日にあったことをいっぱい書き出すんです。お寺の行事の後とかにも、私なんか「良かった、終わりましたね」で終わりなんですけど、「ここはああだった、こうだった」とか、「次はこうしなけりゃいけない」とか、こんなことまで考えるんだと思うくらいに、その日の反省をするんですよ。家族にとってはどうだったかわかりませんが、外に向かってはすごく優しく、体格がどっしりしておおらかな雰囲気でした。

地域に開かれたお寺に

境内に、「影向のマツ」という樹齢600年以上といわれている松があります。平成23年(2011年)9月に、国の天然記念物になりました。影向は仏教用語で、神仏がこの世に現れた姿をいいます。枝張りは四方に30mくらいあります。

昭和30(1955)年代末に江戸川の土手の改修工事があり、今の土手あたりにあった墓地を境内に移動することになったんです。そのため松の横にあった池も埋めました。そこで地下水の流れが変化したためなのか、平成3年(1991年)頃から松の樹勢が衰えてほとんど枯れてしまった時期があり、ずっと衰退

原因の調査と対策を続けてきて、一応の完了時期に国の指定をいただいたのです。その後も、樹勢の回復事業は続きましたが、ようやく落ち着いて、今は観察を続けています。

毎年秋に、境内で「菊祭り」が開催されます。昭和42年(1967年)から始まり、今年で56回目を迎えました。菊を作っている菊花会の皆さんとお手伝いしてくださるボランティアによって支えられています。この菊花会は、おふたりの菊づくりの方が、最初は小岩駅の入口に飾っていたようなんですけど、そういう公共の場所に個人的なものを出すというのはどうかということがあり、「お寺の本堂の前に飾らせてくれないか」というご要望があったそうです。それからお寺の境内を提供するという形になりました。

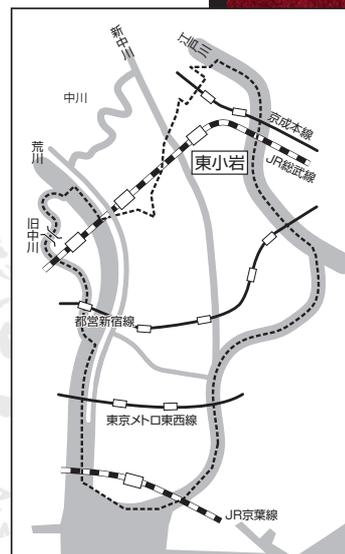


◆次男の誕生日に一家で
写真向かって左奥が名取和江さん(1997年撮影)

お寺というのは、住まいと職場が一緒なわけなんです。そこをどこで線引きするかというのは、自分で決めないといけないわけなんです。そこが一番の悩みどころですね。ここに暮らしていつも思うのは、家族みんなの向いている方向が同じということ。このお寺が地域の方々のために、という目的が一緒なんです。ですからプライベートな喧嘩というもの、最後にはどこかへいってしまうという感じ。共通の目標を持てるということは、本当にありがたいなあと感じますね。

寺の中には法事で使えるような座敷があります。法事だけではなく、青少年委員の方が、子ども育成のリーダーさんを育てる場としても利用していただいています。子どもたちが寝袋を持ち込んで部屋に一泊し、遊んだりお寺にまつわる話を聞いたりとか。私としては場所を提供しているだけなんですけど、皆さんが集える場所。それもこの寺の役割だと教えられてきました。

お寺で仕事をさせていただけるありがたいさ。お檀家さんと触れ合っていて、つくづく感じます。お檀家さんが、私たちを見守ってくださる、そういう気配がすごくあるんです。みなさん本当に優しいんですよ。また、影向のマツに見守られて生活させていただいていること、ありがたい世界で生かされているなあというのは、いつも感じます。これからもお寺が地域の憩いの場所、祈りの場所として続いていって欲しいと思います。



◆インタビュー/2023年10月
/2023年11月

◆聞き手/小宮和枝、山本國子
◆コーディネーター/樋口政則

◆お問い合わせ◆
総務部総務課
人権啓発係
☎6638-8089